

3. 市民の意向調査

青梅市民に対するアンケート調査を行い、市民のバス交通に対する意識を把握した。

以下にその概要を示す。(詳細は「参考資料2 市民の意向調査」参照)

(1) アンケート実施概要

① 調査票の作成

アンケートにおいて公共交通の課題を抽出し、公共交通に対する市民の意向を把握するため、青梅市の現状からみた公共交通の課題を踏まえて、以下の視点に沿って設問を構成した。

Q1: バス利用の現状

Q2: 利用者から見たバスサービスの問題点

Q3: 市民の移動ニーズと公共交通サービスの不適合

Q4: 路線バスの今後の確保維持に関する市民の意向

② 配布回収方法

- 調査票を調査対象者あてに郵送配布し、回答は後日郵送回収した。
- アンケートの回収は、宛先は青梅市役所で料金受取人払いとした。
- 配布回収は平成 23 年 12 月に実施した。
- 配布物件: お願い状 (A4判、裏側に関連情報)、調査票 (A3判)、返信用封筒

③ 配布回収結果

- 市域全体を対象に調査対象者 3,000 人を無作為に抽出して、概ね人口の割合に応じて配布した。
- 年末を締め切りとして回収した。
- 回収数 1,231 票、回収率 41.0%であった。

表 3-1 アンケートの配布・回収結果

	世帯数	人口	配布数	抽出率	回収数	回収率
青梅地区	5,027	11,703	265	2.3%	123	46.4%
長淵地区	9,145	22,032	456	2.1%	181	39.7%
大門地区	8,528	20,688	437	2.1%	175	40.0%
梅郷地区	4,352	11,094	221	2.0%	98	44.3%
沢井地区	1,575	3,817	83	2.2%	47	56.6%
小曾木地区	2,262	4,372	76	1.7%	27	35.5%
成木地区	1,147	2,266	40	1.8%	21	52.5%
東青梅地区	7,582	16,272	386	2.4%	168	43.5%
新町地区	8,411	20,084	434	2.2%	149	34.3%
河辺地区	7,533	16,191	393	2.4%	148	37.7%
今井地区	4,682	11,341	209	1.8%	78	37.3%
居住地不明	-	-	-	-	16	-
合計	60,244	139,860	3,000	2.1%	1,231	41.0%

(世帯数、人口:平成 23 年 10 月 1 日現在)

(2) バス利用の現状(Q1)

- バスを利用していない世帯は、半数はバスが利用可能な環境にあるが利用しておらず、さらに最寄りバス停を知らない世帯も22%ある。

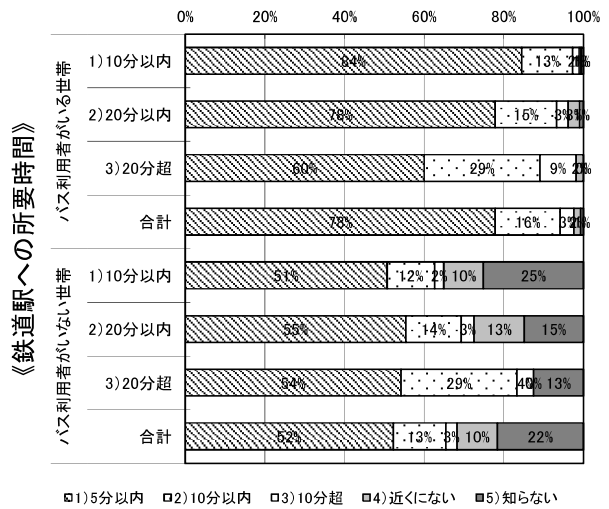


図 3-1 バス停近接性

(3) 利用者から見たバスサービスの問題点(Q2)

- 現状のバスサービスのうち不満度が高い項目として、運行本数(平日)、終発時刻(平日)、鉄道乗継(時間)、定時性があげられている。

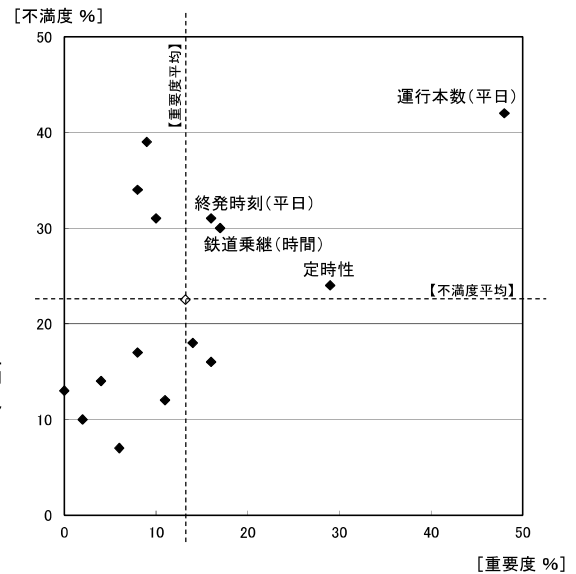
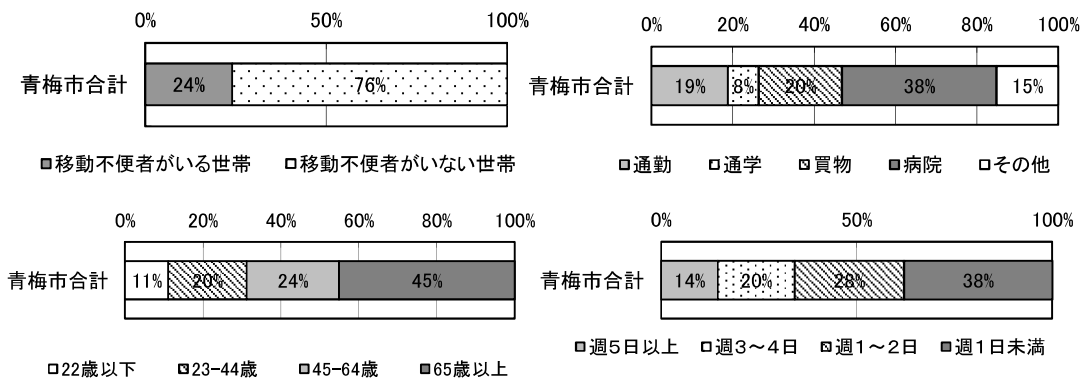


図 3-2 バスサービスに対する不満度(やや不満+不満)の割合と重要度の割合の分布

(4) 市民の移動ニーズと公共交通サービスの不適合(Q3)

- 外出時の移動で不便を感じている人が市内に24%ほどおり、それらの人は高齢者が多く、不便を感じている移動目的は買物・病院であるが、その頻度は週1~2日以下と低い。

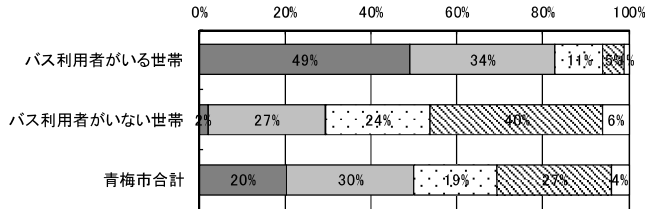
図 3-3 外出時の移動に困っている人



(5) 路線バスの今後の確保維持に関する市民の意向(Q4)

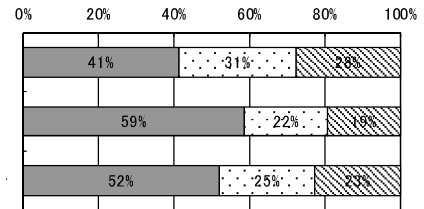
- バスを利用していない世帯でも、「将来クルマに乗れなくなったとき必要」「バスが必要な人のために必要」など、バス路線の必要性は感じているものの、バス路線の経営状況については、半数の世帯は認識していない。

図 3-4 路線バスの必要性



- 家族の日常生活には、なくてはならない交通手段である
- 普段は利用していないが、たまに必要とときにないと困る
- 現在は必要ないが、将来クルマを運転できなくなったときにないと困る
- 自分の世帯には直接必要ないが、駅から遠い人やクルマのない人には必要である
- あまり必要性を感じない

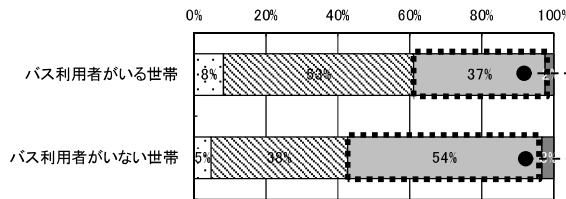
図 3-5 公共負担に関する認知度



- 知らなかった
- 路線バスの赤字は知っているが、赤字への補助は知らなかった
- 知っていた

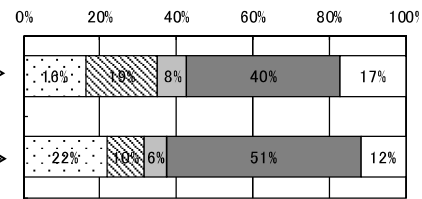
- 半数は公共負担の継続を望んでいるが、半数は公共負担の削減を望んでおり、その場合の方法は「路線バスよりも公共負担の小さい交通手段・方法に切り替える」が最も多い。

図 3-6 公共負担についてどのように思うか



- さらに公共負担を増やし、路線バスを改善していくべき
- 公共負担をこのまま継続して、路線バスを維持していくべき
- 公共負担は必要だが、現在の補助額は高いと思うので、減らすべき
- 路線バスへの赤字補助は必要ない、廃止となってもやむを得ない

図 3-7 公共負担を減らすためにどうしたらよいか



- 運行本数を減らすなどして、運行経費を削減する
- バス利用者を増やすなどして、運賃収入を増やす
- 運賃を値上げして、運賃収入を増やす
- 路線バスよりも、公共負担の小さい交通手段や方法に切り替える
- その他

(6) 自由意見

- 「バスがどこを通っているのかわからない」「路線図がわかりづらくどのバスに乗ったらよいかわからない」といったバス路線のわかりづらさを指摘する意見がみられた。
- 同じ路線を走るバスの発車時刻が近接している区間がみられ、運行間隔をずらした方が利用機会が増えて便利になるとの意見がみられた。

表 3-2 自由意見の件数

意見	件数
1) 新規バス交通の導入について	222
2) 現状のバスサービスについて	236
3) 現状のバス路線の維持について	237
4) その他の交通手段について	50
5) その他について	48
合計	793